

秋季県高校野球選手権は最終日の27日、弘前市はるか夢球場で決勝を行い、八戸学院光星が八戸西を14-3で下して2年ぶり17度目の優勝を飾った。三回に北浦哲平、伊藤巧将（こうすけ）の本塁打による一発攻勢で一挙6得点。その後も攻撃の手を緩めず、先発全員の長短16

秋季 県高校野球

最終日

安打で圧勝した。3位決定戦は聖愛が青森に4-3で競り勝ち、残る1枠の東北大会出場を決めた。八学光星、八戸西、聖愛が出場する東北大会は10月14~20日、宮城県で行われ、成績は来年春の選抜高校野球大会（センバツ）出場の参考材料になる。（本紙取材班）

光星猛打 2年ぶり制覇

八西抑えきれず

3回北浦、伊藤弾 一挙6点



【八戸西-八学光星】3回裏、八学光星無死、北浦が左越えにソロ本塁打を放ち2-0。捕手・大釜

【評】八学光星は2点リードで迎えた三回2死、吉村、野呂の単打などで満塁の好機をつくり、主将藤が左翼席に本塁打を打ち走者を一掃。この回計6点を奪取すると、以降も着実に得点を重ねた。投げては先発國澤と中継ぎ・森の継投で相手打線を封じ込め、最後まで試合の流れを握ってきた。八戸西は今大会、好投してきた主戦福島が打ち込まれ大量失点、四五回に3点を返したが、反撃もこぼれていた。

福島対策 球の見極め徹底

1桁安打に止まっていた八学光星打線が、ようやく覚醒した。地区予選最終戦で3点に抑えられ

ハイライト



3回裏、八学光星2死、伊藤が左越えに満塁本塁打を放つ。捕手・大釜

準決勝までの各試合で、一桁安打に止まっていた八学光星打線が、ようやく覚醒した。地区予選最終戦で3点に抑えられた八戸西・福島を早々にぐんぐん伸び、左翼ポールぎす同校から14点を奪った。鍵は「球の見極め」だった。福島の得意とする低めの落ちる変化球を打ち、おあぐねた反自を踏まえ、対策として膝下のボールに手を出さないよう徹底した。さらに初戦からの連投疲れで「制球が乱れる予感があった」と仲井監督。その言葉通り、序盤は多くの打者がボールが先行した。そして三回、試合を決定つけたのは上り調子の伊藤巧将だった。東北大会では終盤にもっと追加点が取れるよう、さらに練習を重ねたい」といふ。2球目の甘いスライターのたたき、打球はぐんぐん伸び、左翼ポールぎす同校から14点を奪った。鍵は「球の見極め」だった。福島の得意とする低めの落ちる変化球を打ち、おあぐねた反自を踏まえ、対策として膝下のボールに手を出さないよう徹底した。さらに初戦からの連投疲れで「制球が乱れる予感があった」と仲井監督。その言葉通り、序盤は多くの打者がボールが先行した。そして三回、試合を決定つけたのは上り調子の伊藤巧将だった。東北大会では終盤にもっと追加点が取れるよう、さらに練習を重ねたい」といふ。2球目の甘いスライターのたたき、打球はぐんぐん伸び、左翼ポールぎす同校から14点を奪った。

（大久保拓地）